

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200630		
法人名	株式会社オレンジ		
事業所名	グループホームなかよし		
所在地	松戸市小山97-8		
自己評価作成日	令和5年6月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	令和5年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自宅での暮らしとおなじように穏やかに過ごせる家」という理念の下ご支援させて頂いているところでしたが、コロナ感染予防としてここ3年ほどは色々な制限の中での生活となってしまいました。これからはご家族様のご理解のうえで、感染予防をしながら外出や、近隣の皆様との交流を再開して、文字通り自宅で過ごしているような暮らしが出来るよう取り組みをはじめております。その一環として認知症カフェを6月より開催し地域に密着し、開かれたグループホームを目指しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは隣接の柏市で訪問看護ステーション等の在宅支援サービスを提供する㈱オレンジが運営するグループホームであり、法人の各種サービスや専門職と連携して、自宅での暮らしと同じように穏やかに過ごせる家を目指している。コロナ禍を経て入居者の社会とのつながりを持つことの大切さを痛感し、春には花見を再開、6月からは毎月近隣の方と入居者も一緒になっての認知症カフェをオープンするなど、積極的な取り組みが見られる。また、医療面でも法人本部と連携してホームでの看取りに熱心に取り組むとともに、身寄りのない方、生活困窮者なども受け入れ、社会的な役割も果たそうとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいが 3. 家族の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、ミーティング等で職員と共有している。	「自宅での暮らしと同じように穏やかに過ごせる家」という分かりやすい理念を掲げ、玄関に掲げ1ユニットの少人数運営で穏やかな暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度はコロナ感染予防として交流が思うように行えていなかったが、R5.5月より交流の場を設けている。	コロナ禍で地域との交流を自粛していたが、5類移行を機に、隣接の小山集会所ホールを利用して毎月「認知症カフェ」を開催したり、散歩時の交流を図る等の取り組みを再開した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	R5.5月より認知症カフェを開き、地域の方々との理解を深める活動を始めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で日頃のご入居者様の様子をご報告しご意見を頂いている。	昨年は運営推進会議を6回書面開催して、議事録を関係先に送付したが、今年からは隣接の小山集会所で、市職員や民生委員など関係者の参加を得て再開した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や直接訪問して協力関係を築けるよう努力をしている。	運営推進会議に市または地域包括支援センター職員にも参加願ひ、理解を深めるとともに、都度相談に乗っていただいている。生活支援課とは毎月連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を実施し、身体拘束に関して理解を深め周知徹底をするよう努めている。	年間研修計画の中に「身体拘束、虐待防止について」の職員研修を複数回計画し、最近では1月に実施した。委員会は法人本部と合同で、看護師などの専門職も交えて年4回開催している。本年度第1回は4月に実施した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施している。接遇など言葉の面で私的し合える関係を築く努力をし、身体的には入浴時など全身状態の観察・異常の早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご入居者もいるので、必要時には情報を頂き参考になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には、ご家族様に丁寧にご説明し、ご理解、ご納得いただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様への声掛けを大切にし個々の思いの把握に努めている。ご家族様には面会時やメールでの連絡、運営推進会議での意見や質問等を反映するよう心掛けている。	身寄りのない方もいるが、日常はメールでの連絡が主となっている。運営推進会議の案内に入居者の様子なども添えて発信し、家族からの要望もいただける仕組みを工夫している。家族面会はコロナ禍でも受け入れ、できるだけ交流を図れるようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務時間中やミーティング時により良い支援が出来るよう提案や意見交換が出来る場を設けている。	1ユニットで職員も多くはないので、日常的にコミュニケーションを図り連携は良い。会議は月1回15時頃から開催し、意見交換をしている。ヒヤリ・ハットなども数多く出し合い、職員間で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況等を把握・評価し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量を把握しアドバイスをするとともに、研修やミーティングでお互い高めあえる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催のケア会議や推進会議に参加し交流の機会を設けている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時には、より多くお話をしてお本人の意向等を把握できるよう努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前から家族・関係者等から情報を聞き取り、不安や要望にお答えできるよう取り組んでいます。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意向を把握し、早く施設に慣れていただけるよう対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	対話を大切に出来る事は共に行いながら、互いに感謝することでより良い関係が築けるよう努めている。			
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の近況をメール等でお伝えし、ご面会も状況に応じて出来る限り対応して双方に安心して頂けるよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の訪問はこれまでなかったがボランティアのかたの訪問はあった。春からは車での外出もはじめています。	コロナ禍を経て今春以降、自粛していた花見、外出支援等、各種取り組みを再開し始めている。認知症カフェは入居者と近隣の方、ボランティア、家族などとの交流の機会としたいと考えである。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は揃ってリビングで過ごして頂いている。座席やレイアウトの変更などを行い皆さんで関わりあえるよう工夫をしている。			

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も何かあればご相談いただけるようお話をさせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から出来るだけ御本人の意向を聞き出し希望に沿えるよう努めている。表情等からも読み取る努力をしている。	利用者本人とのコミュニケーションを大切にしている。家族・介護支援専門員からの情報と合わせて本人の希望や意向を大切に、気持ちよく過ごせるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時に得た情報とその後の会話の中で得た情報を職員間で共有し、その方らしく生活できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い心身状況を把握している。出来る家事などお手伝いしていただき有する力が継続しさらに向上できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで課題やケアの方法を検討し、関係者にアドバイスを頂きながら計画に反映するようにしている。	介護支援専門員と相談員が2名体制で初回のアセスメントを行い、介護計画を作成している。モニタリングを定期的に行い、計画に変更が無ければ6ヶ月毎で更新している。急変があった時には見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は日報に記載し、気づいたことや特記事項は申し送りノートに記入し共有し作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ご入居者の状況にあった柔軟な対応をするよう努めている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の訪問を継続したり、地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回の訪問診療、緊急時の対応も24時間体制である。必要な方には病院受診も可能である。	月2回の訪問診療医の来所の他、法人の運営する訪問看護ステーション、訪問歯科などの、きめ細かな支援が受けられる。他科受診時は家族が職員が付き添い、受診後の情報も家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護師間でタブレットを利用して状況を共有し適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は状況提供を行い、病院と連携しながら安心して施設に戻れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居の際、重度化や看取りの指針についてご説明し、ご理解頂き意向を確認している。	入居時に重度化や終末期に向けた指針を説明し、本人・家族の意向を聞いている。法人の運営する訪問看護のきめ細かな支援を受け、ケア方針を統一して、昨年度は複数の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡の優先順位に従い、主治医、看護師との連携により適切な対処を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ感染により予定の消防署参加の訓練が行えなかったため自主訓練となった。必要に応じて避難場所への移動を行う。	コロナ禍の為、消防署指導の避難訓練等は出来なかったが、利用者も参加し、室内での自主訓練を2回行った。収納場所の確保が難しい為、水は充分確保しているが食料品の備蓄は2日分程度となっている。	近年想定外の災害が各地で報じられている。特に外水氾濫等時等の備えが必要な地域であるため、特に避難方法については今一度確認し合っていたきたい。

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様それぞれに合った声掛け、対応をするように心掛けている。	利用者それぞれに合った言葉かけを心掛けている。思いを表現できない方にはゆっくりと対応し、表情や仕草から思いを読み取り支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢の提示など工夫し、希望に添える様対応する。レクや政策活動など意見を聞きながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	例えば就寝時間も個々に合わせて対応している。散歩に行きたい方には付き添ったり個々の希望やペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった清潔な服装で生活して頂いている。訪問美容にてカットを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事形態で提供し食事のイベントも行っている。準備や後片付けは、ご入居者と共に行っている。	献立はその日の食材を見て職員が決めているが下ごしらえや、味付け、片付けは利用者と一緒にしている。季節の行事やイベントを大切に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー・摂取量・水分量を日報に記録している。個々の状態に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行い、清潔を保持している。訪問歯科と衛生士の訪問で管理と助言を受けている。		

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の誘導と個々のタイミングに合わせて見守りや介助を行っている。日中と夜間で対応をかね状況に合わせている。	個々のタイミングをみて、日中はトイレへの誘導を行っている。夜間は安全の為ポータブルトイレの利用や職員が介助し、排泄の自立にむけた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量やメニュー、水分摂取量に気を付け、体を動かす機会を設けて便秘の予防に取り組んでいる。排便は記録し医師と共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴している。ご本人のペースで入浴・着替えが出来るよう支援している。	週2回の入浴で清潔保持を行っている。家庭同様の個浴の為利用者がゆっくり入浴でき、髪を乾かしたり、着替えも自分のペースで出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に合わせて対応している。休息したい方はソファーに移動するなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服のチェック、状態の観察を看護師、主治医、薬剤師と共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なこと、好きなことに合わせてレクやお手伝いをして頂き、気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	4月から車で外出を行ったり、家族と外出したりと対応をしている。	コロナ禍の為、近隣の散歩等は行っているが、入居者の希望するような外出はできていない。これからは利用者の希望を聞いて出掛けるように支援していく。	



自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今までは金銭を所持されることはなかったが、ご家族様と相談し検討を行う予定。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何かの折には手紙を書いたり、電話をして頂いたり支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに装飾を一緒に作ったり季節感を感じられるよう取り組んでいる。毎日の掃除できれいな環境を保ち、居心地の良い空間になる様に取り組んでいる。	共有スペースの清潔保持に努めている。外出して季節を感じる事が出来なかったので皆で飾り付けを制作し季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるよう工夫している。	日当たりのよいホームであるが、夏場対策としてグリーンカーテンや遮光シェードの採用等により、利用者にも優しく、省エネにも繋がる工夫を検討願いたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席やソファなどレイアウトを工夫し楽しく過ごして頂けるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居のさい愛着のあるものをお持ちいただき、居心地のよい空間になる様対応している。	日中はリビングで過ごすことが多いので、各居室は安全に配慮され、すっきり片付けられている。備え付けのクローゼットには季節毎の衣類や布団や愛着のあるものが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を考慮し、出来る事を無理なく行って頂けるよう支援する。安全面には配慮しつつ過度な介助にならないように努めている。		